

米沢品質AWARD

漆3WAYショルダーバッグ

申請者情報

区分 : 企業
運動体名 : 株式会社 三香堂
所在地 : 米沢市門東町2-8-19
代表者 : 茶原 克之
ブランド責任者 : 茶原 克之
担当者 : 手塚 麗羅
連絡先電話番号 : 0238-22-2661
メールアドレス : sankodo@sankodo-sac.jp
発信情報 : <http://sankodo-sac.jp/> HP
<https://hinomotohanpu.com/> ECサイト

AWARD申請内容

審査状況 : 二次審査中

種別 : 産品

※ 受賞を目指す产品やサービスの名称

漆3WAYショルダーバッグ



漆3WAYショルダーバッグ

❖ 申請する商品やサービス等の概要

トートバッグ＆ショルダーバッグ＆リュックに変身できる3WAYバッグです。

小型のノートパソコンやA4サイズの書類がすっぽり入り、ビジネスや通学にお使いいただけます。また、1泊旅行やお出かけにも様々な場面でお使いいただけます。

3WAYショルダーバッグ最大の魅力であるバッグの前面には形、大きさが違うポケットが3つあり、それぞれの用途でお使いいただけます。縦長のポケットには折りたたみ傘を収納することができ、小さめのポケットにはハンカチやティッシュ、キーケースなどすぐに取り出せる小物が収納できます。

ビジネスでお使いいただく場合には、縦長のポケットにはパソコンケーブル、小さめのポケットにはマウスなどパソコン周辺の小物が収納でき、メインのバッグ部分にはパソコンや書類が収納できます。

帆布は、使えば使うほど馴染んで柔らかくなっています。使う人によって、馴染み方が変わるので、自分自身の唯一無二の鞄を育てることができます。帆布素材ならではの経年変化も味わうことができます。

修理も承っておりますので、糸のほつれ、角が擦れて穴が開いたときは、修理も可能です。

サイズ：約H38cm×W33cm×D10cm／持ち手の立ち上がり：約11.5cm

ショルダーの長さ：リュック時 左右それぞれ約65cm、ショルダー時 約80cm～150cm

重さ：約920g／重量：約12.5L／素材：6号帆布(パラフィン撥水加工)綿100%

ポケット：前面 3、内部 オープン2

❖ 挑戦と創造のストーリー

当社は38年の歴史の中で、企画からデザイン、仕入れから製造、販路確保から販売まで、ユーザーに届けるに至るまでのあらゆる工程を、米沢の自社工場で行ってきました。やや頑固さのある仕事風景ですが、夏の暑さ・冬の豪雪下でも、辛抱強くじめに取り組む、米沢の「ものづくりの精神」をもって製品を作り続けています。その中で、自社ブランドとして「牛や」「日乃本帆布」を展開。米沢の風土で培われたアイデアや頑固な仕事ぶりで、他県の帆布バッグ店と一味違ったデザインや仕様の商品を生み出してきました。

本商品は、一般的に「ヘルメットバッグ」と呼ばれる形状のバッグです。もともと、航空用ヘルメットを収納するためのバッグとして米国空軍で使用されていたもので、時代の変遷を経ていくつかの形状が存在しますが、この形状のものは1960年代後期から登場した3期目のデザインになります。3期目は、デザイン性や収納性が高いところから、有名メーカーが一般向けの「ヘルメットバッグ」を生産。認知・人気ともに高まりました。帆布生地は、その丈夫さや、実際にミリタリーユースな素材で相性がいいことから、当社でもこのタイプのバッグを生産することとなりました。

企画にあたり、ユーザー視点を考慮しました。帆布バッグの専門店として、当社のオリジナリティを強調するとともに、見た目や実際の使い勝手の良さも追求したい。特に、サイズ故にビジネスでのニーズは想定されるため、毎日でも使っていただける使いやすさや強度も実現したい。そこで、一般的に流通するヘルメットバッグよりも、より実用性を重視した仕様を落とし込むためアイデアを出し、以下のような仕様での製品づくりに挑戦してきました。

① 使い勝手の良さの追及

サイズや形状から、ビジネスユースがあることを想定。毎日使って使いやすい仕様を心掛けました。ファスナー部は口布付きにすることで、上部までマチ幅を活かせる仕様に。外部ポケットは3分割することで用途を細分できるように。メインの収納部は、吊るしの薄いポケット以外は、仕切りやポケットはあえて排し、書類やパソコンが入れ込みやすくしています。内部の使い方は、ユーザーそれぞれで違うことが多いため、バッグインバッグや小分けの袋などで、ユーザー自身の使い勝手に合わせられるよう、シンプルな仕様となりました。

② 持ち手へのこだわり

これまで当社のバッグの持ち手の仕様は、綿テープを使ったものが主流でした。綿テープは、しなやかで曲がりやすく、加工がしやすい反面、帆布生地に比べて経年でのダメージも受けやすく、ボロボロになってしまうデメリットもありました。ビジネスユースを想定した際に、最も使う部分であり負荷も集中するため、従来の綿テープでよいか議論を重ねました。帆布で持ち手を作る、それ自体は可能です。しかし、一見「布を縫う」というシンプルな工程に見えますが、当社が定番商品で使う6号帆布は、工業用のミシンを使わないと針が通らないという頑強な物で、製造の際はハンマーを使っての折り癖をつけたり、硬い生地を数枚重ねたり折り返したり、と縫製業としてはかなりの重労働となります。試作を重ねた末、実用での強度を考えた際に、帆布ならではの丈夫さという点は捨てがたいと判断。このモデルではあえて、帆布生地で持ち手をつくる仕様としました。工業用のミシンがある、厚手の帆布を縫う技術がある、という当社の強みが存分に発揮されたパートです。高耐久で持ちやすい物を作るために、技術と労力は惜しみなくこの工程に費やしています。

③ デザインと帆布イメージの融合、漆生地の使用

帆布は、天然素材でできており、丈夫で長く使い続けられ、デニムのように経年変化を味わえる雰囲気が、ノスタルジックに感じる素材ですが、一般流通しているヘルメットバッグはナイロン素材で作られるものが多く、素材とデザイン性の調和や親和性に関しては、一般製品と同じデザインでよいかどうか悩みの部分でした。そこで、ポケットのレイアウトを左右非対称とする大胆なデザイン案を敢行。下部ポケットのボタンには軍装品でも使用された亀の甲ホックを取り付けることで、ミリタリーの雰囲気を演出。30cm長のポケットには、当社のロゴ入りタグ(暖簾に「帆布」と入った和テイストのロゴ)を配し、全体的にレトロ感ある見た目にまとめました。また本製品では、帆布の加工生地では珍しい、漆のプリントが施された生地をポケットのフラップに使うことで、より個性が際立つ外観となりました。また、全体ではなく部分的に漆生地を使うことで、しつこくなくインパクトのある印象に。漆加工は、日本独自の製法ということも相まって、和柄愛好の方やインバウンドへのアピールにもつながっています。この大胆な外観アイデアを製品化したこと、当社のゆるぎない定番アイテムとなりました。

帆布生地で日本の伝統技術を融合させる。多くの職人がひとつの鞄を作り上げる素晴らしい技術です。

※亀の甲ホックは仕様変更のため現在使用されておりませんが、代替パーツも雰囲気を損なわないよう、アンティークライクな光沢感の少ないマット加工のマグネットパーツを使用しています。

デザイン面、仕様面と、アイデアを製品に盛り込んだことで、もともとの「ヘルメットバッグ」にはない仕様をまとうようになり、特に漆生地の使用は、当社の独自性が色濃い物となりました。

❖ 商品やサービス等の品質の高める工夫

▣ 製品について

・持ち手の縫製

多くのヘルメットバッグの持ち手の縫製は、生地の表側から直に縫い付けされるのみとなっています。サイズ感や用途から、容量いっぱいに持ち物を入れるユーザーも多く、持ち手が脱落する事例を度々耳にしていました。そこで当社では、生地の裏側から縫い付け、さらに口布の縫い位置と持ち手を縫った生地との間に持ち手を挟み込むことで、持ち手の縫い位置の上部で表裏両面から縫うこととなり、脱落しにくいつくりとしています。

・持ち手の形状・強度

もともとのヘルメットバッグの持ち手は、やや中心寄りに、ちょうど半円に近い形状の短いものが主流でした。バッグに重量が出た際に、より頭頂部に負荷がかかり持ちにくくなるうえ、収納部と同じ生地を丸手にしたのものが多いため、強度を心配する声も聞かれました。当社の持ち手は、6号帆布を2枚重ねにして、縫い目の根元部分を一般製品より長くすることで、グリップ部分をしっかりと握れる長さを確保。またグリップの部分は丸手にしており、さらにこの部分を上から革で包むことによって、手への負荷を軽減し、手触りも柔らかくて馴染みやすい物となっています。

▣ 素材について

帆布生地は、ISO14001取得の国内企業の国産綿帆布を使用。旧JIS規格に基づいた糸の撚り数や打ち込み本数で生産された、こだわりの帆布生地です。また、生地の加工には、燃焼効率のよいボイラーの設備や綺麗な透明の水に変換してから排水するなど、自然にできるだけ負担をかけないよう配慮した工場を使用しています。安心と信頼の国産帆布を用い、米沢市で製品化しています。

▣ 修理対応

当社製品の修理対応を行っております。丈夫な生地ながら、長期間使用すると、頻度の多い箇所は擦れて穴が空いたり、糸がほつれたりしてきます。依頼のカバンは、その箇所さえ直せば十分に使えるというものが多いため、修繕後引き続きご利用いただけるように仕上げております。

❖ 商品やサービス等の独自性・価値

米沢織を起源として、米沢には多くの布を織る・生地を縫う下請けの工場が存在しています。衣類用に薄手の生地を仕立てる工場は多くありますが、厚手の生地を製品化する工場は僅かで、当社は厚手の生地での加工を得意とする点で、市内でも独自性が際立っています。

▣ ポケットのレイアウト

外装小型ポケット2個、縦長(約30cm長)ポケット1個。

もともとのデザインを踏襲している製品は、外装ポケットは全高に対して5割～7割ほどの高さの同サイズのポケットを2つ備えていますが、当社は上記の仕様にて製造。特に、30cm長のポケットは、折りたたみ傘やペットボトルがスッポリ入るサイズとなっており、他社製品ではほぼ見られない特徴的なポケットになっています。

▣ 3WAY仕様

ショルダーストラップのレイアウトを変更することで、手持ち、肩掛け(ショルダーバッグ)、

背負い(リュックサック)の各持ち方に対応。元々は、2WAYで持ち手と肩掛け仕様でしたが、お客様の要望からリュック仕様を追加し3WAYになりました。他社製品は2WAY(手持ちと肩掛け)の仕様が多い。

▣ 使用の帆布生地

国産6号帆布(撥水加工・洗い加工済)を使用。

使用生地は、生地厚とパラフィン含浸による撥水加工のため硬く、工業用ミシンを使用しないと針が通らない程の厚さのため、一般工房では加工がしにくいものです。また、特殊な洗い加工により色落ちや後縮みがしにくくなっています。

▣ 「漆」生地

漆の装飾(印伝様の型による)を帆布生地に施した煌びやかな外観。

日本独自の漆で模様を入れる手法を取り入れ、生地に漆含有の特殊プリントを施した【漆帆布シリーズ】。模様も日本伝統の吉祥文様を模した和柄デザインです。”JAPAN”をテーマにしており外国人のお客様に特に人気があります。

※現在は波柄の文様と、鳳凰をモチーフにした文様の生地にて製作しています。

❖ 商品やサービス等に対する評価

本製品と同型モデルの当社ECサイトの製品レビューに寄せられたユーザーの声より(抜粋)

- ・必要な物がすべて入るので重宝しています！
- ・背負っていると本当にたくさんの方から、素敵だねと言っていただきます。
- ・本バックは見た目のカッコ良さ、ポケットが多い、大きい。一番は、トートバッグはもちろん、ショルダーバックに、更にリュックにもなる3WAYは最高の機能！
- ・外ポケットは厚みのある小物も入れられるので、これも重宝します。
- ・長いポケットは、なんとiPad miniがスッポリ入りました。超ラッキーです。
- ・前面の縦長の大きなポケットは今までこれだけ大きなポケットが付いているバッグは見た事が無い！と驚きました。
- ・自慢の宝物になりました。
- ・見たら格好良い模様(波模様)が入っている、控え目でありつつも漆の存在感もしっかりある良さにも惹かれました。

❖ 情報発信の手段

- ・自社店舗や関連会社での販売(米沢本店及び各直営店、小売販売店等)
- ・SNS(Twitter、インスタグラム等)での情報発信
- ・県内外の百貨店や商業施設でのポップアップ出店
- ・山形県内でのイベント出店(わっさマルシェ、エスパル山形等)
- ・県内外の道の駅や高速道路SAでのイベント出店
- ・東北、山形物産展への出展

❖ 評価を活かす仕組みや体制

当社では、ECサイトにて製品や店舗等に関するアンケートを実施しているほか、商品ページでは、ユーザーにレビューを投稿いただけるようフォーマット化しています。これらで上がったお客様の声は、社内会議にて議題化され、実際に仕様の変更や改善を実施するなど見直しを行い、よりよい製品づくりにつなげています。

実際に、本商品もユーザーからの声を反映させ、幾度かのマイナーチェンジを行い、現行の仕様となっています。

❖ 今後の計画

当社の親会社である、サックスバーホールディングス株式会社(以下「サックスバー」)の展開する店舗にて、当社製品の導入も拡大中。店頭での米沢市製造の案内や、SNSでの「#米沢市」発信など、米沢市の手作り製品であることを随所でアピールしております。サックスバーが全国に600以上の店舗を持つ、国内屈指のバッグ専門店であることを活かし、今後の販路拡大で当社・米沢市の認知を拡大を狙います。

また、インバウンド、海外通販開設で日本だけでなく世界にもメイドイン米沢をアピールしていきます。

❖ 米沢への貢献

店舗では、プロモーション用の映像を店舗にて流しています。この映像では、当社の所在地のすぐ向かい側にある「上杉神社」にて撮影を行い、鷹山公像や「為せば成る～」の碑を背景に米沢の観光をアピール。併せて、当社工場の実際の製造ラインも収録しており、現地手作りであることが伝わる内容となっています。県外では、特に観光客の往来の多い店舗、川越店(埼玉)、パーソル蓮田店(埼玉・東北道SA)、松島離宮店(宮城)にて映像を流し、次回の観光候補地にしてもらうべく、販促に役立てています。

- ・海外版製品案内での「Yonezawa City」表記。
- ・ふるさと納税返礼品
- ・道の駅米沢での販売
- ・全国各地の催事でメイドイン米沢をアピール
- ・「わっさまるしぇ」出店で米沢市を活性化

❖ 現在取り組んでいるSDGsの取り組み<参考>

- ・アフターフォローで鞄の修理
- ・ウクライナ緊急募金（日本ユニセフ協会）
- ・トルコ・シリア大地震自然災害緊急募金（UNHCR協会）

12 つくる責任
つかう責任



16 平和と公正を
すべての人に



❖ 商品やサービスの画像



漆柄



10年使用した商品

＼紐が固定されて使いやすくなります！／

ショルダーの結び方は
「ひばり結び」がオススメ！



①ショルダーを2つ折にします。

②折った部分を背面の金具に差し込みます。



③2つの端を輪の中に通します。

④引っ張ってしっかりと結びます。

リュックのショルダーの結び方

種別
 產品

調査員評価集計結果

問1. 秀でた「挑戦と創造」のバックグランドを感じる

そう思う

|

どちらとも言えない  4

そう思わない  0

問2. 「優れた品質」や「他にはない価値」を感じる

そう思う  1

どちらとも言えない  3

そう思わない  1

問3. 販売・広告活動等優れた取り組みをしている

そう思う  1

どちらとも言えない  4

そう思わない  0

問4. 米沢を代表し、米沢ブランドを高める事に貢献しそう

そう思う  4

どちらとも言えない  1

そう思わない  0

問5. これからも更なる進化が期待できる

そう思う  4

どちらとも言えない  1

そう思わない  0

評価 (4 / 4)

4 コメントを残す

コメントを書く.....

▲ 新しい順 ▲ 古い順

しゃちょう



評価：



以前から日乃元帆布さんのバッグのファンであり、現在ではトートバッグ、ボディバッグ、財布、キーケースなど普段使いのバッグ類はすべて御社の製品です。米沢を代表するブランドになりうることは間違いないと思いますが、いかに「米沢らしさ」を表現していくかが、このブランド認証においての肝だと思いますので、ぜひその部分も表現していただければと思います。

[返信](#)

編集

① 2ヶ月前

yk347843



評価：



使えば使うほど味が出る帆布バックはとても魅力的です。また、工房見学が自由にできるとHPに掲載されており、職人さんの物づくりへの姿勢を実際に見ることができ、安心して商品を購入することができるのも素晴らしいことだと思います。ぜひ市民にも広く認知されて欲しいです。

[返信](#)

編集

① 2ヶ月前

りさぶろう



評価：



丈夫で使い勝手がよく、デザイン性も優れたバックだと思います。
米沢織の地元で、帆布を使ったバックを製造する独自性には挑戦と創造の姿勢を感じますが、全国の帆布主産地との違い、「米沢だからできる」といった部分がもっと感じられると良いと思います。

[返信](#)

編集

① 1ヶ月前

AWARD



評価：



耐久性に優れた手作り布製品を作ることは、米沢ブランドにとって魅力的な付加価値である。エイジング加工が施され、すでに柔らかくなっているキャンバス製品は作れないのでしょうか？

 [返信](#)

[編集](#)

 29 日 前

米沢市産業部米沢ブランド戦略課

〒992-8501 山形県米沢市金池五丁目2番25号
TEL : 0238-22-5111 (代表)
FAX : 0238-24-4541
Email : brand@city.yonezawa.yamagata.jp

Copyright © City of Yonezawa All Rights Reserved.